

(様式) 府立松原高等学校 「学校協議会」 報告書 (第1回)

日 時	平成27年6月20日 (土) 14:00~17:00			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	吉川 年 幸	松原市立松原第三中学校長	中須賀 久 尚	教頭
	菊地 栄 治	早稲田大学教授	麦田 伸 一	首席
	峯本 耕 治	弁護士	伊藤 あ ゆ	首席
	高橋 実 加	本校PTA会長	山口 裕 子	人権教育主担
			木村 悠	人権教育主担
	教職員等			
	易 寿也 (大阪芸術大学) 糀 秀章 (校長) 清水 信吾・亀田 恵美・森田 光里・坂口 恵美・高倉 麻衣・三宅 愛 中島 弥香・中川 泰輔・大久保 諭・新熊 佳苗・山田 正人			
おもな テーマ	1) 本年度「学校経営計画」「学校方針」 2) 報告「松原高校の入り口と出口～1本の大根が世の中へ」 3) 協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	○本年度の「学校経営計画」の説明 (糀校長) グローバルな視点で地域社会を支える人を育てる、インクルーシブな総合学科高校 ○学校方針の説明と重点目標について (伊藤首席) ○「松原高校の入り口と出口～1本の大根が世の中へ」 ・就 職—ミッションは、独立するために就労すること (森田) ・進 学—自らのルーツを綴って大学に挑戦 (坂口) ・自立支援生—松高でできるようになったこと (亀田) ○ 協議委員からのご意見、提言			
提言内 容・改善 方策	・3本の発表、人への関心という点で共通している。相手のことをもっとよく知りたい、本当はよくわかっていないのでは、と問い直している。Aタイプの学力が松高の生命線。職員室の会話では、生徒の良い話がいっぱい出ている。どうすれば松高の教員は出来るのか。秘密を知りたい。 ・取り組みがどう継承されるのか。生徒への向き合い方は言葉では伝わらない。教員がどう変わっていったのか。 ・かつて進学その先のことを考えてくれた。今もよく見てくれている。親には言えない事を言える場であってほしい。 ・「愛情、安全、安心」の環境保障、つまり、発達保障ができています。「なんで〇〇できないのか」と見立てると、生徒や保護者とのかけ違いが起こる。1つ目のケースではそれを防いでいる。 ・教員自身が安心して働ける空間である。困ったときに助けてくれる。 ・同僚性に加えて、スタートラインがすでに違っている生徒に対して甘えで止まらずに「行ききっている」先輩の関わり。そうでないと見えてこない、と3年目に実感した。 ・学年団、相担制のチカラは大きい。また、さまざまなコンセプトが教職員のコンセプトになっている (2学年:ともにこえよう、3学年:TEAM~1人じゃないってすてきなことね~) ・相担制は教員の年齢が揃っているときにうまくいく。30年前と同じ現象が起きている。 ・子どもたちを「どうにかしたい!」と思っている先生たちの中に自分が入っていけるのか。 ・どこまで関わるのかと、思うことは大切。ただ、「教師とはこうである」像が現実の子どもの姿と重なっているかを考える。			